

各部会における審議概要

部会	分野	目指すべきまちの姿（B欄）		「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など（C欄）
		（目指すべきまちの姿）	（設定した考え方など）	（基本的な取組の方向性）
第1部会	危機管理（防災・防犯等）	<p>①今まで経験していない災害への備えや、事前復興の取組が進んでいるまち</p> <p>②みんなで支えあい、いのちを守り、暮らしをつなげられるまち</p> <p>③犯罪が起こりにくい、犯罪を生まないまち</p>	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な災害に対する複合的なリスクを適切に想定し、そのリスクに対応する杉並独自の持続可能なまちづくりを進めていく必要がある。 燃えにくく倒れにくいまちづくりを更に進めていく必要がある。 被災しても復興又は再建しやすいまちづくりが必要である。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間の力を取り込んで、みんなで災害に強いまちをつくる必要がある。 企業、住民、NPOといった幅広い担い手による防災力を結集（結び直し）し、日常的に災害のリスクを共有し、発災時には役割を分担する共助の仕組みが必要である。 災害後も区に住み続けられる、又は区に戻ってこられるための施策が必要である。 <p>【③関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美しいまちでは犯罪が減少するとされることから、街の美化を図り、あわせて、目の届かない場所やすさんだ場所をなくすなど、犯罪の機会を与えない、犯罪を誘発しないまちづくりという発想が必要である。 社会的な孤立などを防ぐことで、犯罪に走ることを未然に防ぐ取組が必要である。 	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 耐震や不燃化など区民の安全安心の取組を促進する。 波及的な被害が広がる長期停電による熱中症の発生などへの対策を推進する。 清掃、土砂撤去の遅れによる感染症拡大等への対策を整備する。 水害対策は、事前に被害地域が想定しやすいため、ポイントを絞った対策を推進する。 減災の視点からグリーンインフラを推進する。 被災しても復興又は再建しやすいまちづくりの取組を推進する。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助の取組を区全体に広げて、区民主体の共助と公助の取組を推進する。 地域の人的防災力（消防団など）を向上させるため、区の支援や関係組織等との連携を充実する。 国・都・他自治体・民間事業者等との連携・協働を有効に機能させるための取組を推進する。 中小規模の災害に備え、ソフト面の対策を推進する。 コロナ禍を前提とした新しい社会では、応援や受援が機能し難くなることが想定されるため、区の中にある防災上の資源（ヒト・モノ・オープンスペースなど）をしっかりと活用し、結集（結び直し）していく。 災害時に公共施設ではなく、自宅や親戚宅など身近なところに避難した時に、公的な支援や物資提供が受けられるよう取組を推進する。 被災したことで区民が区を離れることがないように、また、弱者を取り残さないようにする。 <p>高齢化や格差社会が広がると、生活再建できない人が増えるため、そこに丁寧にアプローチする体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害による関連死を減らす取組を推進する。 <p>【③関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者から見られないマージナルな場所には犯罪の抑止力が働かないので、そういった場所の日常的な利活用を通じた、犯罪の起こりにくい仕組みづくりを推進する。 孤立化による犯罪を防ぐため、包摂的な社会コミュニティの形成を促進する。
	まちづくり	<p>①駅から周辺に新たな交流が生まれ、杉並らしい文化が息づく、誰もが出歩きたくなるまち</p> <p>②多様なライフスタイルと安全安心を共に実現できる、住民同士の支えあいを通してつくられるまち</p>	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅を中心とした周辺地域に新たな区民交流を生み出し、杉並らしい文化と都市活動を創出し、誰もが出歩きたくなるまちづくりを進める。 杉並固有のストック（駅前空間、インフラ、文化、魅力）を利活用しながら、多様なライフスタイルの人々が出歩きたくなる、新しい交流が生まれるまちづくりを進める。 にぎわい創出・駅周辺を拠点として計画的な景観づくりを通じた移動することが楽しくなるまちづくりを進める。 住宅都市杉並の価値をさらに高めるためには、誰もが気軽に街に出掛けられるような移動サービスが充実していることに加え、にぎわいのある駅前空間の質を高め、まちの活性化を図る必要がある。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> シェアリングエコノミーや住民合意によるルールづくりを通じた住民が主体となったまちづくりを進める。 公共企業等と連携した頑強なライフラインの構築、災害に強い家づくりを通じた安全・安心なまちづくりを進めつつも、多世代それぞれのライフスタイルの変化にも対応できる柔軟なまちづくりを進める必要がある。 	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> SNS映えするなど、観光の新しい視点から景観計画の基本的な方向性を示す。 駅前空間の質を高めるために、交通拠点としてだけでなく、交流・消費・にぎわいのある複合的な拠点として整備していく。 駅周辺のまちづくりは、現在だけでなく、将来の利用の仕方を想定して面積や規模の拡大だけでなく、商業の活性化や障害者施策などと連携し、住宅都市及び地域交通の要となるようまちの質の向上を図る。 駅周辺に人の流れの柱となる事業を誘導する。 10年後の移動・交流の観点を踏まえ、住宅都市杉並の魅力や価値を活かす。 官民が連携した取組を推進する。 誰もが気軽に街に出掛けられるように、公共交通と徒歩・自転車でのシームレスな移動サービスを整備していく。 移動の質が転換することを見据え、多様な移動手段を確立していく。また、効率的に早く移動するだけでなく、楽しく歩けるまちづくりを進める。 隣接自治体と連携して、人の移動、人の流れを作るまちづくりを進める。 区南北交通を始めとする交通の円滑化と利便性の向上を図る。 鉄道と道路の立体交差化など地域公共交通の整備について、公営企業などとの連携を推進する。 交通弱者のため、また環境保全に寄与するため、南北バス「すぎ丸」などを含むバスや鉄道など複数の交通サービスの接続性を改良するMaaSにより、シームレスな移動を実現していく。 自動運転等の技術など最新の技術を見据えた交通体系を構築する。 区内の交通不便地域を解消していく。 道路交通（車道や歩道）を再編成していく。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 官民が連携した取組を推進する。 福祉・出産・子育て等、区民生活の延長にある住民発案のまちづくりを進める。 災害に強い頑強なライフラインを整備する。 空き家発生の抑制を重点化する。 低炭素など環境問題やSDGsへの貢献ができるまちづくりを進める。 マンション・アパートのバリアフリー化を推進する。

各部会における審議概要

部会	分野	目指すべきまちの姿（B欄）		「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など（C欄）
		（目指すべきまちの姿）	（設定した考え方など）	（基本的な取組の方向性）
第1部会	産業	<p>①住環境と調和しながら、文化的・創造的産業が芽生え根付いていくまち</p> <p>②多様な働き手が多様な働き方を選択でき、誰もがいきいきと活躍できるまち</p> <p>③環境に対する意識を高め、区内のみどりに関わる全ての産業を共に支え、守りつないでいくまち</p>	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅都市であることを踏まえ、都市と産業の共生・共存を目指す。 多様な人材からイノベーションが生まれることを誘発する。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多世代やジェンダーレスなど多様な働き手が、それぞれに合った多様な働き方のできる社会環境を整備する。 社会的な困窮者を生み出さないことは、産業政策のみならず地域の安定性を高めるためにも重要である。 <p>【③関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物資源の保全と活用（地元食材の活用）により、農地の多面的な価値を高めていく。 農地の公益的な価値を捉え、維持保全に多くの人を関わらせていく。 	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 隣接区や同種の産業のある区と連携するなど、区域を超えた産業の発展を推進する。 観光事業の推進に当たって、近隣区や交流自治体等との連携をさらに強化する。 商店街支援や観光促進に文化的な視点を入れて、まちのにぎわいを創出する。 多様な人材の交流によりイノベーションが生まれ、新たな文化的・創造的産業につながることを支援する。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多世代やジェンダーレスなど様々な働き手が働く機会を持てるように、就労支援や地域の産業支援を推進する。 在宅勤務などが浸透していく中で、他区に比べて杉並区が住みやすく、かつ働きやすい魅力的な場所であることをブランディングする。 <p>【③関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの区民や企業等が農にふれあう機会を創出するとともに、地元食材の活用等により、農地の多面的な価値を高める。 農業を産業、また農地を公共財として捉え、保全に向けて行政が積極的な関与を図る。
	みどり	<p>①多様なみどりの繋がりを活かし、暮らしを支えるグリーンインフラが身近にあふれるまち</p> <p>②みどりの空間の多面的な価値と役割を活かし、新たなライフスタイルが育まれるまち</p> <p>③民有地のみどりの公益的な価値を踏まえ、共に守り未来へつないでいくまち</p>	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共のみどりや民有地のみどりなど、多種多様なみどりのネットワークを活かしながら、暮らしを支えるグリーンインフラが身近に感じられるような取り組みを進めていく。 区民のために身近なみどりを大切にしていくことが大事。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊び場、心身の健康、コミュニティの形成、農業、生物多様性、環境、防災など、みどりの多面的な価値を活かしていく。 みどりをフィールドとして区民の活動（ライフスタイル）を育んでいく。 みどりの量で評価しがちだが、今後は質の面（ランドスケープ、景観）を追求しステージを一段上げる必要がある。 <p>【③関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人民間所有の屋敷林など地域の中に維持されてきたみどりの公益的な価値を踏まえ、所有者以外も参画しながら維持保全していく。 農地の公益的な価値を捉え、維持保全に多くの人を関わらせていく。 	<p>【①関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区域を越えて、広域的な視点でグリーンインフラの整備を推進する。 災害時の被害抑制だけでなく、初動期には避難場所、応急期には応援部隊の拠点となるなど、災害時に柔軟に活用できる広場空間として公園の整備を進める。 多世代・多文化が共生できる住環境のためのインフラとして公園を整備する。 <p>【②関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> みどりと広さを確保した空間としての公園は大事だが、防災上・生物多様性の観点から、みどりにボリュームを持たせていく。 生物資源の保全と活用（地元食材の活用）により、農地の多面的な価値を高める。 コロナ禍の中で関心が高まっていることもあり、日常活用できるオープンスペースとしての公園を確保していく。 区民ニーズに合わせた公園づくりをしていく。 公園での活動を通して、区民の心身の健全（メンタルヘルスを含む）を維持していく取組を進める。 公園の維持管理などに地元住民や民間団体が関与する施策を進める。 ビオトープなど、生物の生息場所としての観点も含めて公園を整備する。 他区と連携し生物多様性、在来種の管理といった取組を推進する。 ストーリーやデザイン性をもってみどりの質を高める取組を推進する。 <p>【③関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 杉並のみどりの7割が民有地である特徴を踏まえ、利活用を含めた自治体テリトリーを拡大する。 公共性を広く捉えた上で、民有地の樹木等、屋敷林を中心にサポートを強化する。 屋敷林の減少スピードを遅らせるための支援を拡充する。 屋敷林に対する理解を広げる情報発信を行う。 市民農園のニーズは非常に高い。マンパワーの活用として、民間と農地の関わりを強化する。 所有者・維持管理者と利用者が共に支え合っていくようなみどりのまちづくりの仕組みを作る視点を構築する。

各部会における審議概要

部会	分野	目指すべきまちの姿（B欄）		「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など（C欄）
		（目指すべきまちの姿）	（設定した考え方など）	（基本的な取組の方向性）
第2部会	福祉	<p>①互いを理解し、認め合うことで、誰にもやさしく暮らしやすい共生社会が実現したまち</p> <p>②誰もが集える居場所を含む多様な福祉の基盤が整った地域の中で、互いに助けあい支えあいながら、自分らしく歳を重ねられるまち</p> <p>③多様な社会参加（活動や就労など）の機会が充実し、一人一人が社会的な役割を担うことで人生100年時代をいきいきと暮らせるまち</p> <p>④ICT活用による「バーチャルなつながり」など時代の変化に応じた多種多様なつながり方により、誰一人として孤立しないまち</p>	<p>○互いの理解と認め合いが大事。互いを知ることでも自分のこともわかり自己肯定感が醸成される。そういう社会が地域共生社会につながる。①</p> <p>○高齢者、認知症の方にやさしく、あるいは子どもにも障害者にもやさしい地域は、皆が住みやすい地域になる。いろいろな人のことを受け入れられるようになる。①</p> <p>○自分らしく歳を重ね、最後まで地域で暮らし続けることが誰かの役に立つ存在でいられるような地域社会が望まれる。②</p> <p>○「人生100年時代」を支える、在宅をベースにした、最後まで暮らし続けられるまちづくりという視点が重要。②</p> <p>○これからの10年、AI、ICTの議論は欠かせない。テクノロジーの進化の可能性を含めて、集ったり、語らったりする現実社会のコミュニケーションの場とICTのハイブリッドの取組や考え方を取り入れていくことが大事。①～④</p> <p>○生活や経済的な格差が大きくなる中で、社会的に弱い立場にある人に対する支援の仕組みとして、生活基盤を整えるというハード面の取組が必要。②</p> <p>○住民の生活や地域社会を支えていくためには、ハードとソフト、個人の支えあいと地域の支えあいといった両面から取り組んでいくことが必要。②</p> <p>○リアル、バーチャルを問わず誰もが自由に多様なスタイルで社会参加できる機会が必要。③</p> <p>○いろいろな形で社会参加することで、一人一人が社会的役割を持つことが大事。③</p> <p>○つながらない自由を尊重しながら、いざというときにつながれるような資源や機会があることが必要。④</p> <p>○地域の見守りや支えあいで、支援が必要な人の社会的孤立を防いでいくことにより、誰もが安心して住み続けられるまちになる。④</p> <p>○コロナの時代において、つながりが持てない状況でオンラインによるツールが一般的な形になったが、今後の10年を考えてもこのような変化は継続する。④</p> <p>○支援が必要な人に対して開かれた社会をつくることが必要。どんな人でも平等に公共サービスにアクセスでき、必要な支援を受けられる社会にしていくことが必要。④</p>	<p>【①・②関連】</p> <p>○高齢者も若い世代も、障害があってもなくても、同じ時間を共有する場所や機会を確保することで、絆や連帯感を育み、差別をなくし誰にでもやさしい共生社会をつくる。①</p> <p>○障害のある人や支援の必要な人を一か所に集めるという支援方法ではなく、普通の生活を送ることが当たり前となる意識の醸成やそのための支援の仕組みを構築する。①②</p> <p>○制度や分野といった垣根を超えて、誰一人として取り残さない切れ目のない支援の取組を推進する。②</p> <p>○地域包括ケアシステムに住民や企業等が参加し、地域でのボランティアや互助活動が活発に行われることで、地域共生社会づくりにつなげる。①②</p> <p>○郷土愛を根底に据えた「わがまち杉並」を、多くの区民と共有し、地域の課題を共に解決していく地域社会をつくる。②</p> <p>○住み慣れた地域の中で、人生の最終段階まで自分らしく安心して暮らし続けられるよう、自助・互助・共助・公助の取組をさらに進める。②</p> <p>○人生の最後まで安心して過ごせる地域をつくるために、ICTを活用し、支え手となる専門職だけでなく、家族や地域の人が気軽にアクセスすることができるコミュニケーションの仕組みを構築する。②</p> <p>○介護などで孤立したり、追いつめられることがないよう、ケアラー（在宅支援・介護などを無償で支える人）を支える基盤を整える。②</p> <p>【③・④関連】</p> <p>○気軽に集うことのできる場を地域につくり、そこに参加した誰もが社会的な役割を得て、喜びを感じられる機会を増やしていく。③</p> <p>○個人の自由を尊重しつつ、必要なときに、多様な人・活動・組織とつながれる地域社会を創る。③</p> <p>○「リアルなつながり」の機会だけでなく、ICTを活用した「バーチャルなつながり」など、これまでの10年とは異なる新しい手段・ソリューションによる多様なつながり方の整備を進める。③④</p> <p>○今後の10年は情報技術が更に進展することを踏まえ、AIの技術を活用するなど相談しやすい仕組みや生活支援の環境を整えると同時に、情報通信技術を活用することがむずかしい人へのサポート体制の整備を進める。④</p>

各部会における審議概要

部会	分野	目指すべきまちの姿（B欄）		「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など（C欄）
		（目指すべきまちの姿）	（設定した考え方など）	（基本的な取組の方向性）
第2部会	医療・健康	<p>①多様な関わりを活かし、支えあいながら人生100年時代のライフステージを自分らしく、いきいきと住み続けられる健康長寿のまち</p> <p>②全ての区民が自然と主体的に健康づくりに取り組み、健康で楽しく・安心して暮らせるまち</p> <p>③オンライン診療や健診結果等に基づく情報の提供などICT等を活用し、一人一人にあわせた医療・支援が地域に行き渡って安心して暮らせるまち</p> <p>④感染症医療や在宅医療に関して、十分な医療体制や関係機関の連携・協力体制が整ったまち</p>	<p>○「人生100年時代」に、誰もが自分らしく生き、誰も取り残さない社会をつくるには、自由に誰でも利用できる居場所が必要。また、多世代にわたり楽しく過ごせる社会にしていくことが大事。①</p> <p>○健診結果等のビッグデータの活用によるデータを根拠にした健康づくりを進め、生涯を通じて、まち全体で健康を推進していくことが必要。①②③</p> <p>○社会的に孤立している人が多い。分断された社会は、健康にも生活にも悪い影響を与えるので、多様性や共生の考え方のもと、孤立化を防いでいくことが重要。①</p> <p>○健康長寿のためには、高齢期からではなく、小中学生・青年期からの健康づくりが必要。また、区民が主体的に健康づくりに取り組んでいくことが必要。①②</p> <p>○健康への関心の有無や程度、生活環境による健康格差の縮小を進めることが大事。②</p> <p>○まち自体が健康づくりをしやすい状況を整えることが大事。②</p> <p>○ICT等を有効に活用し、必要な人に必要な医療・支援が適切に行き渡ることが大事。③</p> <p>○医療・介護の一体化・一元化が大事。③</p> <p>○団塊の世代が後期高齢者世代に入る。地域で末永く暮らせる環境づくりとして、区内医療機関の病床数を踏まえると、医療環境を整える意味でも在宅医療体制の充実やそれを担う人材を守っていくことがこれからは重要。④</p> <p>○感染症の発生に対しても、十分な医療体制や関係機関の連携・協力体制を整えることで、必要な人が必要な医療を受けられることが大事。④</p>	<p>【①・②関連】</p> <p>○「人生100年時代」の健康長寿社会に向け、幼少期からの健康教育、若い世代からの体力向上、歯の健康の維持など、世代を超えて、生涯を通じた健康づくりを推進する。①</p> <p>○高齢者が増える中、趣味の場所を確保することは、医療・介護・フレイル予防の観点から重要であり、そのための取組を進める。①</p> <p>○高齢化が進むことにより認知症は区全体に及ぶ大きな課題となることから、本人や家族だけでなく、区全体で認知症対策に取り組む。①</p> <p>○社会的孤立の防止や生きがいの確保といった観点から、就労や趣味、動物との触れ合いなどの様々な切り口で、支える人も支えられる人も含め、誰もが自然な形で社会参加が出来るような、地域の居場所づくりを進める。①②</p> <p>○AIの発展によって集められたビッグデータの中で解析したことを、健康づくりなどに活かしていく。①②</p> <p>○地域の中の見守りは、行政や専門職だけに頼らず、地域に関心を寄せるまちの人を増やし、その人たちの力を集めるといった視点で取り組む。②</p> <p>○区民自身が主体的に健康を管理するための取組を後押しする環境整備、健康づくりに取り組みやすいまちづくりを進める。②</p> <p>○健康格差縮小の観点から、「健康に十分な関心がない層」や「何らかの理由で健康づくりに取り組めない層」に対する働きかけを強化し、行動変容を促す取組を推進する。②</p> <p>【③・④関連】</p> <p>○ICT技術の地域医療分野への効率的な導入について検討を進める。③</p> <p>○災害時における緊急的な医療体制の構築に向けた取組を進める。③</p> <p>○病床数が少ないという地域特性を踏まえ、終末期までを見据えて、地域で末永く暮らせる環境づくりとして、在宅医療体制を充実させる取組を推進する。④</p> <p>○安心した暮らしの確保に向けて、医療や支援を必要とする人に、適切に提供する仕組みを整える。③④</p> <p>○誰もが暮らしやすい環境づくりという観点から、小児医療体制や重度心身障害者医療体制の充実に向けた取組を推進する。③④</p> <p>○今後、コロナのような感染症が新たに発生することも想定し、地域医療の中でどのような対策が取り得るのか検討を進める。③④</p> <p>○大きな視点から、医療と介護の一体化、一元化に向けた取組を進める。③④</p>

各部会における審議概要

部会	分野	目指すべきまちの姿（B欄）		「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など（C欄）
		（目指すべきまちの姿）	（設定した考え方など）	（基本的な取組の方向性）
第2部会	環境	<p>①気候危機によるリスクの低減を通して、区民の生命と健康が守られているまち</p> <p>②エネルギーの地産地消や循環型社会実現に向けた取組が進んだ「質」の高い自然環境、生活環境を次世代に引き継いでいけるまち</p> <p>③環境にやさしいまちづくりが、住みやすく、快適な暮らしにつながっているまち</p> <p>④一人一人の取組が地域だけでなく、世界を変えていけると感じられるまち</p> <p>⑤誰もが地域で共に進める環境への取組、自然との共生について学び、体験し、行動できるまち</p>	<p>○気候危機は健康や生命に関わるものであり、「環境」が「健康」と結びつく。①③</p> <p>○「環境」を考えるときには、社会や経済の在り方とともに広い意味で考え直すということが必要①～③</p> <p>○環境施策と都市計画は密接につながっているものである。①～③</p> <p>○SDGsの前文に「一人として置き去りにしない」とあり、その精神は環境分野においても重要なものである。SDGsを「100年後に残したい社会」など、分かりやすい言葉にする。②④</p> <p>○みどりと共生は重要課題②⑤</p> <p>○区民にイメージしやすく、「見える化」して、循環型社会を伝えることがグリーン社会構築につながる。④</p> <p>○地球温暖化の問題は国際的に進めていかなければならないが、その中で区の施策としてどの範囲で取り組むかを考えなければならない。また、区民一人一人がしっかりと取り組むことが必要。①～⑤</p> <p>○暮らしの持続という観点から基本構想の柱には気候危機対策が重要。「気候変動のリスク低減」「地産地消」「地域循環型社会」を基本構想の方向性で示していく。①～⑤</p> <p>○廃棄物、リサイクル、循環型社会の形成をより柔軟に考えていく必要がある。区民と区議会のイニシアティブで始まった取組を大きく育てていくという方向性を示していく。①～⑤</p>	<p>【①～③関連】</p> <p>○気候危機（災害や暑さ・寒さ）は、健康や生命と関わることから、そのリスクを減らすための被害軽減策を推進する。①③</p> <p>○熱中症対策としては、建物の断熱改修など、環境の視点からのアプローチを行う。①③</p> <p>○危機管理の面からのエネルギーの地産地消や蓄電、がれき撤去のためのオープンスペースの確保などを推進する。①～③</p> <p>○食品ロスの削減及び家庭の廃油回収の取組を強化する。②</p> <p>○区民一人1日当たりのごみ排出量が少ない杉並区においては、他自治体よりもより高い目標を掲げる。②</p> <p>○プラスチックの削減・リサイクルを強化する。②③</p> <p>○安心安全な暮らしの視点から、原発に頼らない再生可能エネルギーを推進する。②③</p> <p>○CO2削減に向けて、車の利用を減らしていくため、マルチモビリティステーションなど交通施策と合わせて取り組む。②③</p> <p>○みどりの質の向上を図る。②</p> <p>○生物多様性に配慮したまちづくりに取り組む。②③</p> <p>【④・⑤関連】</p> <p>○区民が実感を持つために、デザイン志向を取り入れた、分かりやすい、イメージしやすい周知、見える化が重要。分かりやすい情報の提供を推進する。④</p> <p>○区民の環境への配慮行動を促すため、インセンティブや規制等を有効活用する。④⑤</p> <p>○環境への取組が健康に結びつくという区民への意識づけや、身近なごみの減量、分別の意識の醸成など区民の行動を促すような取組を推進する。④⑤</p> <p>○環境対策を普段の暮らしに取り入れ、生かしていくために「若いうちから」参加でき、多世代が集まって考えることができる居場所の確保を進める。⑤</p> <p>○区民農園や農業体験等の取組を推進する。⑤</p> <p>○子どもへの教育が親に影響を与えることもある。また、環境は協力的な視点がないと進まないことから、子どものうちから環境教育に取り組む。⑤</p> <p>○小学生から環境を学ぶ仕組みを構築する。⑤</p> <p>○生物多様性に関して理解を深めるため、環境学習を推進する。⑤</p>
	コミュニティ	<p>①誰もが役割をもって自分らしく生き、共により良い地域を創っていくための居場所やコミュニティ活動が豊かな共生のまち</p> <p>②コミュニティの力で、地域で安全・安心に生活できる絆と互助・共助のまち</p> <p>③ICTの活用による「バーチャルなつながり」を含め、多種多様なコミュニティが形成される活力のあるまち</p>	<p>○多様な人を受け入れられる社会（多世代が共生するエイジフレンドリーコミュニティや多様性を意味するダイバーシティなど）は、誰もが住みやすいまちにつながる。〈①・②〉</p> <p>○コミュニティは「地域＝空間」といった地理的なつながりだけでなく、「人と人とのつながり」や「世代間（時間）のつながり」にも着目して考える必要がある。今後は、一人一人が社会的役割を持ち、人となりが、認めあう共生社会をつくる視点が重要。〈①・②〉</p> <p>○SNSが発展している中で、リアルなコミュニケーションがどこまで復活できるか。また、孤立化やコミュニティには程よい見守りが必要のため、デジタル化と関係してくる。〈③〉</p>	<p>【①関連】</p> <p>○「人生100年時代」に、自分らしく生き、誰もが取り残されない社会をつくるため、子ども・若者を含めた多世代が自由に利用・交流できる居場所の整備を図る。</p> <p>○多世代の方、特に若者が地域活動(町会など)に参加する仕組みづくりを進める。</p> <p>○高齢者の居場所づくりは、社会的フレイルの予防につながる。そこに通って健康になるとともに、ボランティアなどによる支えあいを広げる。</p> <p>【②関連】</p> <p>○社会的孤立は家族がいても起こり得る。そうした人々を埋もれさせないために、コミュニティ醸成の取組を一層推進する。</p> <p>○杉並区への郷土愛や帰属意識を高める取組を通して、互助・共助の力を高める。</p> <p>○町会・自治会など既存のコミュニティとNPO・企業などの新たなコミュニティ活動を総合的に支援することを通して、共生・共創の視点に立った担い手同士の協働・ネットワークを進める。</p> <p>○例えば外来以上在宅未満といった患者を支えるには、まちの人の力が重要となるため、近所が声を掛けあうなど、住民同士のコミュニティを取り戻していく。</p> <p>○共生社会には、同じ時間と場所を共有することで生まれる絆や連帯感が必要。そうした場所を増やすことで、障害の有無・程度に関わらない、区民同士の連帯感を育てていく。</p> <p>【③関連】</p> <p>10年後を見据えると、地域課題などに係るデータ化(見える化)が大きなキーワードになることから、こうした情報を基にした区民等とのコミュニケーションや連携・協働の取組を進めていく。</p>

各部会における審議概要

部会	分野	目指すべきまちの姿（B欄）		「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など（C欄）
		（目指すべきまちの姿）	（設定した考え方など）	（基本的な取組の方向性）
第3部会	子ども	<p>○身近な地域で、共に認め合い、支え合いながら子育てができるまち</p> <p>○子どもも親も、ありのままの姿で、のびのびと自己実現ができるまち</p>	<p>○多様性を認めあえる社会にしていかなければならない。</p> <p>○お互いに配慮しあいながら、頼ってもいい、間違ってもいいと言いつける社会を作っていく必要がある。</p> <p>○「孤立」を防ぎ、「つながる社会」にしていかなければならない。地域住民一人ひとりが自立し、協力し、助け合い、最後の砦は行政が担い、区民同士でカバーできるものはそちらにシフトする働きかけが必要である。</p>	<p>【新しい評価・多様性の受入れ】</p> <p>○子どもたちの声を聞ける社会や地域社会にするため、大人の意識改革をしていく。</p> <p>○区民自身が当事者意識を持って、当事者として助け合う関係、介助し合う関係をつくり、それを行政が支えていく。</p> <p>○社会の中に、子どもたちが、そして子育て中の親が、評価を受けなくてもいい場所や自由に過ごせる場所を作っていく。</p> <p>【地域の力の活用】</p> <p>○「実親」だけで子育てを行うのではなく、「地域親」「コミュニティペアレンツ」が子育てをサポートしていく。</p> <p>○地域住民やNPO等の子育て支援団体と行政が一緒になって、子どもや親を支えていく。</p> <p>【居場所づくり】</p> <p>○子どもたちが、未来へ自信をもって、のびのびと育っていける社会としていく。</p> <p>○子どもが異世代間で交流できる場所や受け入れられる場所を設けていく。</p>
	学び	<p>○人生100年を生き抜く力を育み（正解のない社会を自ら切り拓き生き抜く力を育み）、AI（人口知能）と人間の知が共生する人間中心のまち</p> <p>○何かすることで評価され、序列化されるのではなく、そこに居ることが認められるまち（※自己肯定感を育むまち）</p> <p>○地域の課題を解決するために、行政や町会・自治会だけでなく、幅広い分野で様々な人材が参加し、誰もが活躍できるまち</p> <p>○学び直し、やり直しができ、地域の中での体験を通して多様な価値観や選択肢に触れながら、他者と学び合い、教え合いながら自分の人生をつくっていきけるまち</p>	<p>○学び直しができる社会、失敗しても別の道で再チャレンジができる社会、またそのことで自分なりの人生を生きられる社会をつくる。</p> <p>○今の物差しでは考えられない価値観が出てくる中、自分で動けるエンジンを持つ子どもにどう育てるか。</p> <p>○「自分で学ぶ力を養う」ことと「共に学ぶ」ことを並行して進めていく。</p> <p>○色々な出会いとか関係性のある様々な場面を経験させることを一つの基本にする。</p> <p>○自分で選んで、自分で決めた、だからこれでいいという感覚が大事。</p> <p>○会社で学んだことを実学としてまちや商店街などで活かして立て直しをしたり、そこで実学を学んだ人が会社に戻ったりなど、まちをリカレント教育のフィールドにできればいい。</p> <p>○AI（人工知能）を使うべき場面と、人間が活躍すべき場面とを整理していく。</p> <p>○地域とは誰か。学校を拠点に地域を巻き込むというのが、どのような人を求めるのか。そこがモヤッとしているので、そういう部分に焦点を当てていく。</p>	<p>【100年を生き抜く力を育む質の高い教育の推進】</p> <p>○「人生100年時代」、予測不能な社会を生き抜く力を育む 例）「学びに向かう力」「努力する力」「自分で、または仲間と一緒に、状態を変えていける力」「情報を鵜呑みにせず、自分の中で解釈し考えることができる力」「科学的にものを見る力」など</p> <p>【誰もが学び続け、その成果を活かせる地域「学びのまち・杉並」】</p> <p>○人生の色々な時期に学び直しの機会を提供していく（正解がない社会になっていく中で、大人も学んでいかなければならない）。</p> <p>○大人の学び、生涯学習で、地域のシンボルである学校を今まで以上に活用していく。地域の中で色々な人材も活用し、学びあい、教えあう。</p> <p>○自分たちの住んでいる地域の学びの中からは、地域への愛着を育む。</p> <p>○個々が違うことを前提に新しい価値、学ぶ楽しさを生み出す。それが社会を底上げする。</p> <p>【誰一人取り残さない社会の実現】</p> <p>○子どもたちが100年生きたいと思えるようにしていく。</p> <p>○目標に達せられなくても、一人ひとりがそのポジションにいて満足し、自分の中で納得できる人生を歩めるようにする。</p> <p>○何かすることが評価されるのではなく、そこに居ることが認められる社会を作っていく。</p> <p>○子どもたち同士が教え合い、学び合い、それはつながっていくことに結びつき、孤立を避けていく関係性となる。</p> <p>【学びの保障 ※福祉分野に関係】</p> <p>○学びの保障のためには、教育だけでなく福祉の議論も入ってくる。しっかり役割分担していくことが必要。</p> <p>○不登校児童・生徒に対する義務教育は、10年後、今以上に保障されるべき。</p>
	文化	<p>○文化・芸術を通して、人の創造性や表現力を育み、人々の心のつながりや多様性を尊重しあうことができるまち</p> <p>○子どもの頃からより充実した多文化交流や感動体験等が得られるまち</p> <p>○文化・芸術活動が盛んで、身近で気軽に参加、連携・協力することができるまち</p>	<p>○文化・芸術の振興は、人々の心を豊かにするだけでなく、来場者等による地域のにぎわい創出など、地域振興の側面からも重要な取組である。</p> <p>○区内在住外国人が増える中、差別や偏見につながらないよう、多文化交流等を通して正しい理解を広げ深めていく必要がある。</p> <p>○文化・芸術におけるICT活用を含め、誰もが身近で気軽に文化・芸術活動に関わることができる環境を整える必要がある。</p>	<p>○観光や産業、まちづくり分野等と連携した文化・芸術の振興を図る。</p> <p>○文化・芸術をインターネット配信等ができる環境を整備する。</p> <p>○子どものころから多文化交流等ができる環境を整える。</p> <p>○区民が身近に文化・芸術に関わることができる取組を推進する。</p>
	スポーツ	<p>○スポーツを通して、多世代が生涯にわたり、集い、交流するまち</p> <p>○スポーツにより、子どもたちが生涯学び続ける力を養うことができるまち</p> <p>○誰もが様々な形でスポーツに親しめるまち</p>	<p>○国は、スポーツ基本計画において「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むこととしている。</p> <p>○運動部活動だけでなく、クラブチームに参加する中学生が増えている中で、子どものスポーツの場は学校と地域の両面から考える必要がある。</p> <p>○今後のスポーツは、健康と切り離し、生活の豊かさ、楽しさを高める観点から「見るスポーツ」、「学ぶスポーツ」など、より広く捉えていく必要がある。</p>	<p>○中学生くらいまでの子どもたちが、自主的にスポーツを選択・実施できる環境を整える。</p> <p>○障害の有無や年齢など個人の状況にかかわらず、区民が生涯を通じ身近な場所でスポーツを実施できる環境を整備する。</p> <p>○「見る」スポーツ、「学ぶ」スポーツなど多様なスポーツへの関わりを推進する。</p>

各部会における審議概要

部会	分野	今後のあり方（B欄）		「今後のあり方」に進んでいくための基本的な方向性など（C欄）
		（今後のあり方）	（設定した考え方など）	（基本的な取組の方向性）
第4部会	行財政運営	時代やニーズの変化に弾力的に対応できる行財政基盤を構築するため、持続的な「稼ぐ力」の発掘・強化と外部人材の大胆な活用により、行財政運営の構造改革を進めていく	○本格的な超高齢社会の到来やデジタル化やグローバル化の一層の進展といった社会経済状況の変化が加速する現代において、区民ニーズに的確に対応していくためには、多様性があり状況の変化に機敏に対応できる財政運営・組織体制の構築が不可欠 ○多様化するニーズに迅速に対応していくためには、ICTの活用と協働の推進を起爆剤として、聖域なき行財政改革を推進していく必要	【財政・行革】 ○区自らが稼ぐビジョン・発想を持ち、官民連携による歳入確保策にドラスティックに取り組んでいく ○固定観念からの脱却を図り、ICTや外部人材等の活用により、慣例や前例にとられない新たな時代を見据えた行財政改革の推進 【組織・人事】 ○人材の専門性や多様性の向上を図るため、民間経験がある人材を戦略的に登用 ○デジタル化やグローバル化の進展など時代や状況の変化に柔軟に対応できる職員の育成 ○広域連携、自治体間連携、地域循環共生圏の強化 【情報発信】 ○メディアを取り巻く状況の変化を踏まえ、情報提供の考え方や手法を改革していく ○区民や民間との対等な情報共有
	ICT（情報通信技術）	○ICT活用の目的を明確に掲げた上で、行政のデジタル化を一層加速する。 ○区が区民や民間事業者とともに考え、手を携えながらICT活用を推進する。 ○誰一人取り残さないICT環境を整備するとともに、ユーザー側の多様性に配慮した運用を行う。	○国におけるデジタル庁新設や押印・対面・書面原則の撤廃等の動き、「新しい生活様式」など、行政のデジタル化の推進が急速に求められている。 ○一方で、行政だけではICT人材の確保など高度化するICTをとり巻く諸課題の解決が困難であることから、外部の専門人材の登用など民間事業者等との連携が不可欠となっている。	【デジタル化】 ○デジタル化自体を目的にするのではなく、区民サービスの一層の向上や業務の効率化など導入の目的を明確化してデジタル化を進める。 ○区が保有しているデータをデジタル化・オープン化し、区がパブリックデータの拠点となる。 ○システムの導入に当たっては、ベンダーロックインによるシステム経費の高止まりを避けるための新たな方法を考える。 ○計画・実装・普及・チェックというサイクルを構築してICTの環境整備を図る。 ○ネットワーク環境整備は「基本的人権」であり、誰一人取り残さないという視点を持つ。 【民間事業者等との連携・人材確保】 ○ICTの課題を解決するため、民間との連携、専門人材の登用、区民との協働を行う。 ○専門人材の登用に加え、ICTに習熟した職員を活用する。
	協働	○協働の原則に基づき、地域で解決すべき課題を明確化・共有化した上で、杉並ならではの官民連携に基づく協働の取組を推進していく。 ○これまで前提としてきた協働の仕組みに捉われず、地域の多様な主体と実効性のあるネットワークを構築していく。 ○スピード感や戦略性を持った協働の仕組みを実装し、新たな社会資源の創造や地域の課題解決を図っていく。	○超高齢社会の本格的な到来やデジタル化の進展など、今後起こってくる社会状況の変化を見据えたとき、地域の課題を迅速かつ効果的に解決するためには、これまで培ってきた協働の範疇を超えた、より多様な主体との連携が必要となる。 ○都市部において、行政と地縁団体といったこれまでの協働の担い手のみでは、地域課題の吸い上げや課題解決を図ることがより難しくなっていくこととなる。	【協働全体】 ○協働を地域の課題解決や新たな社会資源を生み出すという目的で、戦略的・継続的に推進する。 【コミュニティ、ネットワーク】 ○より多様な主体同士が対等な立場に立ち、具体的な課題解決につなげるための、実効性のあるプラットフォームの構築を目指す。 ○区が各協働の主体の中でのハブ（中継点）となり、企業や民間事業者など異なる文化の間をつなぐネットワークの構築。 ○閉鎖的でなく、より柔軟で開かれたネットワークづくりのための、新たな仕組みや手法を構築する。 【地域の課題解決】 ○職員が主体的に協働に取り組む環境整備と仕組みづくりなど、行政内部の意識や組織を改革する。 ○区民や区の課題解決に資するために、戦略性をもってシステム化された制度を構築する。 ○協働の進捗状況を可視化するためには、協働の目標設定が重要。